

令和2年度 学校評価における自己評価書

評価：「4：たいへんよく取り組んでいる」「3：よく取り組んでいる方である」「2：少し改善（努力）することがある」「1：まだ改善（努力）しなければならない」

	評価項目（指標）	具体的目標	方策・手立て	自己評価	結果の考察・分析による成果と課題		学校関係者評定	学校関係者評価コメント
確かに学力の向上	1 分かる！・できる！授業の展開	児童一人一人の課題の明確化と、チェックポイントを活かした授業改善、個別指導の工夫を基本に、楽しく分かる授業を展開する。	○授業研究会（主題研究）を中心とした日々の授業改善 ○授業内における漢字・計算の定着を図るための繰り返し練習する時間の設定 ○朝の時間・休み時間を活用した個別指導の充実	3	3	○県がしている授業改善のポイントをもとに研究を進めてきた。互いに授業を参観し合い、協議を重ねて授業改善に努めてきた。 ○授業の中で、計算・漢字の練習を繰り返し行った。基礎的な漢字・計算はできるようになってきたが、個人差が大きい。また、応用問題を苦手とする児童が多いので、さらなる基礎学力の向上をめざす必要がある ○文章の仕組みなどがよく分かる問題集を活用して、朝の時間に指導した。また、落語活動の中で、何回も文章を読ませ、暗記させる活動を行った。その成果として、全般に文章の意味を大まかに理解する力が身に付いてきた。 ○縦割り班ごとに、月ごとの読書冊数をグラフにし、評価したこと、読書意欲の向上につなげることができた。また「家読」により家庭における週末の読書週間が身に付きつた。その成果として11月の時点で年間目標冊数180冊を達成することができた。 ○読解力については、応用問題における文章題の意味や、抽象的な文章の意味などの理解を苦手としている児童が依然として多い。要約活動の継続と、読書内容の質を高めることが課題である。	3	発表の際の発語が明瞭で聞きやすかったとの評価が聞かれた。 応用問題が苦手であるが、興味を持たせるなどの方法で、児童自身が生きていく上で必要な力を育てていってもらいたい。
	2 読解力の向上	要約活動の推進と落語活動の活用によって読解力の向上を図る。	○問題集を活用した読解力の向上 ○朝の時間を活用した要約活動の推進 ○ワークシートを活用した落語の読み解き及び5つのポイントを活用した落語活動の実施	3		○家庭と連携した週末課題「家読」の実施と読んだ内容や感想を書く活動 ○縦割り班を活用した読書目標の設定及び月ごとの読んだ冊数のグラフ化		
	3 学習態度・学習習慣の定着	「授業前の準備」「チャイム着席（黙想）」「正しい姿勢（聞く・書く）」の定着を図る。	○進んで取り組んでいる児童への積極的な称賛 ○日常的な声かけ指導の徹底	2		○授業前の準備、チャイム着席については、2学期以降呼びかけを強化してきたので、現在は概ねできている。しかし、正しい姿勢が依然として課題である。		
豊かな心の育成	1 基本的生活習慣の定着	「履き物並べ」「正しい言葉遣い」の定着を図る。	○不土野っ子ファイルによる評価と指導 ○朝の集会での指導（教師の話） ○やり直しをさせるなどの指導・見届け	2	3	○履き物並べは、指導や見届けを継続することで、随分とよくなっている。しかし、保護者及び地区的評価はかなり低いので、家庭や公民館・開発センターでの地区行事等での履き物並べに課題があることがうかがえる。 ○言葉遣いは大きな課題であり、児童会でも改善策を話し合った。教師の指導だけでなく、自分たちで実態を把握し、改善を意識するような取組を継続したい	3	基本的生活習慣の定着は、日頃からの習慣付けが大切で、保護者や地域住民も一緒にやって取り組むことが必要だと考える。 また、メディアとの接し方について何らかの対策が必要で、正しい情報を選択する能力を身につけていってほしい。
	2 思いやの心と命を大切にする教育の推進	自己肯定感を高める教育活動を展開するとともに、道徳科を確実に実施し、評価していく。	○縦割り班不土野キッズによる集会活動等の実施 ○授業記録をもとにした評価 ○参観日における道徳の授業の実施	3		○思いやりの評価では、児童より保護者の評価が低かった。学校では、縦割り班「不土野キッズ」で活動する場面をたくさん見つたことで高学年が低学年を世話をしたり、互いに協力したりする姿が見られた。 ○道徳ノートや授業のプリントをもとに評価に生かすことができた。 ○参観日に道徳の授業を実施することで、保護者と一緒に心と命の大切さについて考えることができた。		
	3 危機管理と安全指導の徹底	危機管理マニュアルの見直しと改善を図るとともに、児童との安全点検により危機予知能力を高める。	○危機管理マニュアルの充実と周知徹底（洪水時避難計画・避難所運営マニュアルの追加） ○児童・職員による安全点検（毎月）の実施	4		○危機管理マニュアルの見直し・共通理解や、村役場・地元消防団と連携した避難訓練の実施により、実際の場面を想定した安全対策及び避難対策を行うことができた。 ○児童と一緒に安全点検を行うことで、児童にも危機意識を高めさせることができた。修理・修繕は教育委員会に迅速に対応してもらった。		
たくましい体の育成	1 体力の向上	個人の到達目標を設定し、年間を通して児童全員が達成できたと感じられるようにする。	○水泳・運動会・持久走大会等での個人目標設定 ○握力・柔軟性が向上する運動を取り入れた授業の実践	3	3	○運動に関する行事では、個人目標を設定し取り組ませてきた。目標を達成する児童が多く、体力向上につなげることができた。 ○握力・柔軟性が向上する運動が、学年によって実践にばらつきがあり、課題を共有した取組はできなかった。	3	柔軟性を向上させる運動については、児童の年齢に応じたものを取り入れるなどの工夫をしてみてはどうだろうか。 また、ゲームやメディアなどに対し、やはり何らかの対応が必要だと考える。
	2 健康の保持・増進	「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムの習慣化を図り、その達成度100%をめざす。 むし歯治療率100%と再発防止をめざす。	○毎朝の健康観察や給食時間のチェック ○保健だよりや治療勧告による保護者への啓発 ○生活リズムの習慣化の良い点を伝える保健指導 ○毎日の給食後の歯みがき指導 ○学校歯科医や養護教諭による歯みがき指導 ○個別の健康相談での治療勧告	3		○方策・手立てについてはしっかりと実践できた。朝ご飯は、全体的に評価が高いが、早寝早起きは、保護者の評価が低かった。ゲームを長時間し、寝る時間が遅くなるという実態もあり、生活リズムの指導はもっと強調していく必要がある。 ○毎日の歯磨き指導、治療勧告をしっかり行うことができた。 ○むし歯率は、昨年度より低い45%だったが、治療率が80%（1月27日現在）であり、治療を呼びかけているところである。		
	3 食育の推進	「食」に関する指導実施率100%及び「弁当の日」の確実な実施をめざす。	○食育参観の実施（6月） ○学級担任と養護教諭が連携した食に関する指導 ○段階をふまえた「弁当の日」の取組	3		○食育の参観授業では、養護教諭が授業に参加し、専門的な立場から指導することができた。 ○食事のマナーについては、教師、保護者の評価が低い。これからも学校と家庭で連携した指導が必要である。 ○弁当の日は、保護者の協力を頂き、食の大切さを考えたり、親子で触れ合ったりする良い機会となつた。		
開かれた学校づくりの推進	1 積極的な情報発信	学校通信・学級通信の定期的な発行と、ホームページの内容の充実・更新等を通して保護者・地域に理解と協力を求める。	○PTA・学校評議員会の計画的な実施（年間7回） ○学校HPの毎日更新、内容充実 ○役員会・常会等での積極的な情報発信と協力依頼	3	3	○PTA評議員会を計画通り実施し共通理解を図ることができた。 ○HPはほぼ毎日更新し、児童の様子とともに教育活動の意義を発信することができた。 ○各種会等でコロナの影響による教育活動の縮小について、理解と協力を得ることができた。	3	PTA評議員会が計画的に開催されていることは好ましい。 コロナ禍のなかでもいろいろな取り組みがされている。 師匠には、リモートで指導をもらえるような方法も考えてみてはどうだろうか。
	2 地域人材の積極的活用	民謡・落語への指導依頼と、総合的な学習の時間等での地域学習の充実を図る。	○民謡・落語指導者との連絡・調整（活動2ヶ月前に完了） ○「総合的な学習の時間」の内容検討及び支援（担当職員） ○地域人材資料の整備・充実と積極的な活用	3		○コロナの影響で、師匠来校が実現できず、十分な落語活動ができなかった。 ○総合的な学習の時間は、3~6年生までを見通した内容を計画的に実施することができた。 ○魚しょく体験など様々な活動で地域の方の協力を得ることができた。		
	2 地域愛の高揚	地域の祭りや神楽等への積極的な参加と、落語や民謡による地域貢献を推進する。	○地域行事に関する資料の収集と児童への理解推進 ○参観日・学習発表会等の内容充実（相手を意識した発表の工夫等）	3		○行事や産業など地域に関わる内容を授業に取り入れることで、地域愛への気持ちを高めさせることができた。 ○ふれあい参観はコロナで実施することができなかつたが、学習発表会では、地域の学習を通して感じた思いを発表することができた。		

【校長所見】

- 本年度も一人年間3回の研究授業を実施し、授業力向上及び学力向上に取り組み成果を得ることができた。次年度は情報機器の活用と複式指導にも重点的に取り組み、さらなる授業力向上をめざしたい。
- 基本的生活習慣は家庭と連携していくとともに、「履き物並べ」「言葉遣い」については、次年度も継続して重点指導を行い改善を図っていく。また、縦割り班による活動を継続し、相手を思いやり、協力していくことをする児童の育成をめざしたい。
- 保健についての手立てをしっかりと実践できたが、虫歯治療率が現在80%であり個別勧告を継続していく。体力づくりについては、個人目標を設定し、運動に取り組ませたので、体力テストにおいてもA・B判定の児童が多い状況である。
- 学校便り・学校HPを通じて教育活動の意図や成果を発信することができた。コロナ禍において教育活動の中止・縮小を余儀なくされたが、次年度活動が正常化したら、従来通り家庭・地域と連携を深めながら取り組んでいきたい。